



おおさきかみじま

# 議会だより

第62号 / 2018年10月19日

## 平成30年9月定例会

監査委員報告	2・3
9月定例会	4
6議員が一般質問	5～9
委員会報告	10～11
あれからどうなった・編集後記	12

勝利に向かって走れ!



# 平成29年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率報告書

区 分	実質公債費 比 率	将来負担 比 率
29年度決算健全化 判断比率	10.7	—
28年度決算健全化 判断比率	11.0	—
(早期健全化基準)	(25.0)	(350.0)
(財政再建基準)	(35.0)	—

## 審査意見書

平成29年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率ともに、現状では基準値内で推移しており、特に指摘する事項はないが、今後、合併算定替の特例が段階的に終了し交付税の減少、景気低迷による町税等自主財源の減収も見込まれるなか、厳しい財政運営を強いられるが、引き続き健全な財政運営が図られるよう努力されたい。

大崎上島町監査委員

※将来負担額より充当可能財源等が多い場合は「—」を記載している。

### ■実質公債費比率

町の標準財政規模に占める借金返済額を示す比率。18%を超えると、起債（借金）の際に知事の許可が必要となり、25%を超えると早期健全化が求められる団体となる。

### ■将来負担比率

市町村が将来返済しなければならない負債の標準財政規模に対する割合を示した率。350%を超えると早期健全化が求められる団体となる。

# 平成29年度一般会計及び各特別会計歳入歳出決算審査意見書

平成30年8月16日から8月22日まで、5日間にわたり平成29年度大崎上島町一般会計決算、各特別会計決算及び関係書類等について審査しました。

## ○決算の結果および意見

### (要旨)

審査に付された一般会計及び各特別会計の歳入歳出決算書は、関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿その他証書類と照合した結果誤りのないものと認めた。また、予算の執行及び関連する事務の処理は、適正に行われているものと認めた。

長期滞納案件の回収整理については、成果を上げている公債権の取組をさらに進める一方で、私債権の回収、整理の仕組みを早期に整備し成果を求めると共に業務の効率化を進めて下さい。

組織運営においては、債権回収、災害対応、施設の運営管理、観光事業等と業務が多岐にわたって展開されている中で、確かな成果を納めて行くためには広く濃密な情報力、専門知識、手法、迅速な対応力、折衝調整能力、そして豊かな経験が求められます。専門知識、ノウハウを蓄積し、発揮することが可能となる人材の採用と育成、そして、配置と活用の仕組みを工夫、改革し、いわゆる「プロの仕事」を実現し、事業効果の最大化と効率化を追求して下さい。

財政運営においては、学習交流センター建設や排水機場等インフラの整備など今年度増加した投資的経費は、次年度も定住促進住宅建設事業等々に積極運用が計画されている中で、西日本豪雨災害の発生により町民の生命、生活を守る災害対応事業、復旧事業など財政需要は更に増加しています。増大する財政需要への対応は、補助金、交付金を適宜、適切に導入、活用することは無論の事として、一方で既存事業、プロジェクトについて、その在り様を、或いは存在自体について再検討、再構築を果敢に行い低コスト化、効率化を進め、歳出削減を実現しながら財源として行く事「既存財源の再配分」が望まれます。限りのある財源を適宜柔軟に伸縮した配分を行い、より健全な財政運営に努めて下さい。

以上を決算審査意見書とする。

大崎上島町監査委員

澤田 武義  
道林 清隆

# 平成29年度水道事業会計決算審査意見書

平成30年8月16日から8月22日まで、5日間にわたり平成29年度大崎上島町水道事業会計決算及び関係書類等について審査しました。

## ○決算の結果および意見

### (要旨)

審査に付された水道事業会計決算書は、関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿その他証書類と照合した結果誤りのないものと認めた。また、予算の執行及び関連する事務の処理は、適正に行われているものと認めた。

料金収入となる有収水量は昨年度より増加しているが、有収率は85.5%と前年度と同じとなっている。有収率が県内の平均より8.7ポイント低くなっており、原因を精査し、漏水調査とともに老朽化等の計画的な更新を進め、有収率の向上に努めて下さい。

水道事業の状況は、人口の減少、施設の老朽化等はあるが、水道事業に移行する際に策定した水道施設の最適化計画により、既存施設の統廃合を計画的に進め、効率的・経済的な水道事業の安定経営を目指して下さい。

また、合併後水道料金の見直しは行われておらず、収支改善のためにも受益者負担と町からの補助金のあり方等を検証し、料金制度の調査・検討が望まれます。

滞納水道料金については、長期にわたり高額となっている案件については、債権確保対策委員会で弁護士等の専門家の意見も聞きながら早急に対策を立て取り組んで下さい。

水道は、町民生活に重要なインフラであり、安心・安全に安定的に供給できるよう体制を構築し、経営基盤の強化と健全経営に努めて下さい。

以上を決算審査意見書とする。

大崎上島町監査委員

澤田 武義  
道林 清隆

## お知らせ

○本庁・各支所ロビーのテレビまたはインターネットで議会生中継がご覧いただけます。

※インターネットをご利用の場合は、ホームページの注目記事「○○議会ただいま生放送中」をクリックしていただければご覧いただけます。

※録画の視聴は町議会メニューの議会録画中継配信でご覧いただけます。

# 第3回定例会(9月議会)

大崎上島町議会は、平成30年第3回定例会を9月19日～25日の5日間開会した。

6人の議員の一般質問に始まり、13件の議案、1件の報告を審議し、可決および承認した。なお、平成29年度大崎上島町一般会計、特別会計の歳入歳出決算認定および水道事業会計決算認定については決算特別委員会に付託した。

また、次回一般選挙からの定数削減の発議があり、賛成多数で可決した。

## 決まった主なこと

- 大崎上島町地方活力向上地域における固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例
- 大崎上島町上下水道事業経営審議会条例
- 大崎上島町過疎地域自立促進計画の一部変更
- 平成30年度大崎上島町一般会計補正予算（第6号）
- 平成30年度大崎上島町国民健康保険事業特別会計ほか6特別会計補正予算
- 財産の取得（小型動力ポンプ付普通積載車購入・町立学校校務用コンピュータ購入）
- 大崎上島町議会議員定数条例の一部を改正する条例（議員発議）
- 地方財政の充実・強化を求める意見書

## 第4回臨時会(8月31日)

- 専決した事件の承認（2件）
- 大崎上島町一般会計補正予算（第5号）

# 一般質問

## 町政を問う

6人の議員が10項目を質問



もりわか 森若 議員

質問（森若議員）

先日の西日本豪雨により、盛谷川に大量の土砂が流入し下流に堆積した。その一部は撤去したが、まだ多くの土砂が残っている。

今の状態でこれからの台風シーズンを迎え新たな土砂が流入すると、川沿いの民家に大きな被害を及ぼす事が懸念されるが、この土砂を撤去する事を考えているのかを伺う。行政は町民の生命と財産を守る事が何よりも優先されると思うので、早く撤去される事を要望する。

仮に撤去が遅れ、川沿いの民家に被害があった場合、半分は人災だと思いがこの点についても伺う。



堆積した土砂

問

河川の堆積土砂撤去は

答

撤去する

答弁（建設課長）

危険な堆積土砂、水利を妨げる土砂については現在撤去している。盛谷川の場合も来年の6月終わりから7月にかけて、遅くとも盆までには撤去する。

問

大串定住促進住宅の不足分は

答

新たな住宅の整備を検討している

質問（森若議員）

このたび約8億2000万円余りで、大串定住促進住宅を建設している。来年4月に新学校が開校した時には、生徒数40名・教職員27名でスタート。全学年が揃う平成36年には、生徒数300名、教職員58名になる。すると今の定住促進住宅の数では到底受け入れる事は不可能であるが、その場合には行政としてどのような措置を取るのかを伺う。

答弁（総務企画課長）

現在、世帯用5戸・単身用13戸に入居希望がある平成36年には今の数では不足するので、新たな住宅を整備する事を検討している。場所は確定ではないが、現時点では白水区の旧教職員住宅及び町営住宅跡地等を候補地として検討している。



建設が進む住宅



上青木 至 議員

問 高齢者・障がい者 計画作成は

な高齢者等の自宅を記入し  
ており、名前や性別、持病  
や服薬等を記入したカード  
を持ち避難時に携帯すると  
いった避難生活を想定して  
いた。

答 有効利用できる個別 計画を作成する

質問（上青木議員）

7月の西日本豪雨災

害では愛媛県の三善地  
区で80世帯浸水する被  
害を受けたが、奇跡的  
にも犠牲者はゼロだっ  
た。誰が誰をサポート  
するかを決めているこ  
とが大きな要因。

この一帯は過去に何  
度も水害に遭っており、  
2006年に県内でい  
ち早く自主防災計画を  
策定、住民は目の付く  
ところへ避難マップを  
張り避難場所までの順  
路や、避難の難しそう

また、町として今回の大  
雨時の避難は区任せの避難  
であったように思うが、避  
難に関して改善点・要望な  
どは聞いているのか。  
そして、数多くのポンプ  
場があるが機能しているの  
か、問題はなかったのか。

答弁（総務企画課長）

平成23年度に町と町内各  
区との間で災害時要援護者  
避難支援制度に関する協定  
書を締結し、要援護者台帳  
等を作成し関係部分を各区  
に提供する。これをもとに  
区で要援護者へ情報伝達・  
避難支援・安否確認を行う  
こととなっている。

まだ、完全ではないため、

樋ヶ浜の樋門



区長・区民の方の意見・協  
力をもとに個別計画を作成  
する。

2点目について、今回の  
豪雨災害を教訓に区からの  
自主避難の情報提供をもと  
に職員が避難所に赴き、情  
報収集し職員派遣が迅速に  
行えるように体制の見直し  
を行う。

ポンプ所、樋門管理につ  
いては停電により2箇所、  
水位上昇によりポンプが1  
箇所停止した。他のポンプ  
は平常通り運転した。樋門  
管理も担当課と管理受託者  
が連携し適切に対応した。

問 造船所跡地のごみ 置き場処理は

適正な管理を 申し入れしている

質問（上青木議員）

6月定例会で早急な対応  
すると回答があった、造船  
所跡地のごみ置き場につい  
て全く処理されていないが。

答弁（保健衛生課長）

適正な対応をするよう申  
し入れている。土地所有者  
に確認したところ廃棄物で  
はなく商品と言う回答。

問 叡智学園建設における 町費負担は

約15億円を見込む

質問（上青木議員）

叡智学園建設における町費  
負担について町が負担した工事  
名と金額、また、今後の負担箇  
所および工事名と金額を聞く。

答弁（総務企画課長）

実施済み事業は「大串干

拓有効活用のため事業1億  
9,920万円」「普通河川  
浜谷川河川改修工事2億6  
143万円」「大串干拓地載  
荷盛土工事3,838万円」  
事業費計4億9,902万  
円これに、各種測量、設計  
業務等の委託料6千万円を  
加え5億5,905万円

9月補正後発注予定「載  
荷盛土撤去工事1,112  
万円」「大串ヘリポート防  
風壁設置工事888万円」  
を加えると5億7,906  
万円となる見込み。

生活基盤事業として「水  
道施設整備事業1,513  
万円」「下水道施設整備事  
業4,473万円」設計業  
務等の委託料2千万円を加  
え8千万円

大崎定住促進住宅の事業  
費等を含め8億2千万円  
で、事業費総合計画は約15  
億円となる予定。財源とし  
て、過疎債、合併特例債等  
の町債9億8,455万円  
を借り入れ、これに対し6  
億7,882万円が普通交  
付税に算入される見込みの  
ため、町の実質負担額は8

H30.10.3 現在



億148万円となる見込み。国勢調査人数に生徒・職員が増えるため普通交付税が増える。実質町負担額8億148万円は平成46年で回収見込み。

**問** 行政懇談会の開催は

**答** 1月中には終了する

**質問（上青木議員）**

行政懇談会を11月までに終わらせると発言されたが、残り3か月で全区回ることはできるのか。

**答弁（副町長）**

豪雨災害があり約2か月遅れとはなるが、1月中には行政懇談会を終了させる。



みずほし なおゆき 水橋 直行 議員

**問** 災害対応での問題点は

**答** 排水ポンプ起動不良

**質問（水橋議員）**

今回の豪雨災害を振り返り、反省する部分は、しっかり対策し安全な街づくりになれば良いと考える。

そこで、今回の災害対応で反省点とその対策案は。また、今回の災害対応で良かった点とその理由は。

**答弁（総務企画課長）**

反省点として、豪雨の被害により各ポンプ場で、ポンプ運転が出来ず排水できなくなった排水場があった。対策として、非常用発電機を備えた電動式動力に更新や制御盤の設置高を上げる検討を行う。

また、災害対応の情報収集、他部署への増員・応援に時間を要した。これを踏まえ組織運用の見直しを行い、非常態勢時には原則全職員を本庁に召集・配備し町民が災害時において安全・安心して暮らすことができる仕組みづくりに取り組み、新たに災害時保健福祉連絡会議を設置し、検討を重ねていく。

被災地区の消防団員だけでは対応できない事象が多々あったため、管轄区域の枠を超えた相互の応援が可能となる体制構築を図る。

良かった点として、災害備蓄品を平成27年度より計画的に購入していたため、被災者への飲食物の提供等がスムーズに行えた。今後

も非常食など必要な物資を計画的に購入する。

早期の避難準備情報、避難勧告、避難指示等を発令し住民に周知を行ったことにより、人的被害がなかったこと。

今回の災害により過去に例のない多くのことを経験

した。この経験を活かせるよう施設の整備、組織の見直しマニュアル等の作成に努める。

**再質問（水橋議員）**

①周知方法として防災無線が雨音等で聞こえづらくメール配信も活用しては。②町と外部機関間で連絡が取りづらかったと言う話を聞いたがどうか。

③災害復旧にあたり歩道等に土砂が残っている部分があるが、対応できないか。④被災者支援策について知っている方知らない方の差が出ないよう、わかりやすい対応周知はできないか。

⑤役場職員が昼夜を問わず一生懸命動いてくれた。⑥断水がなかった。

**答弁（総務企画課長、建設課長）**

①緊急速報エリアメールを各携帯電話事業者のサービス利用をしております、今後基準を定め活用していく。②NTT・中国電力と緊急通報の連絡網があるが、一時的に町内の固定電話が不

通となり連絡手段が途絶えたが、携帯電話での連絡が取れるようになり、以降スムーズに情報共有できるようになった。

③災害対応に関して維持管理委託業者の壁は考えず他の業者にもできるだけお願いして対応を進めている。年内に片づける目途での対応をしている。

④チラシ等で周知を行う。また、各担当課で個別相談を行う。⑥中国電力発電所誘致に伴い、従来の安芸灘ルートとは別に竹原ルートが見つかっており、今回の災害で断水しなかった。

今後も、災害に強い町づくりに向けてできることを検討していきたい。

**再質問（水橋議員）**

断水に関して、町の企業誘致の成功例としても良い点だと思う。今後も学校誘致のように活力のある島のアピールや、企業誘致を通じた災害に強い町づくりをしていただきたい。



前田 太 議員

## 問 倒壊危険家屋の所有者の認識は

答 多くは現状を理解している

### 質問（前田議員）

町の努力もあり、倒壊危険家屋対策も効果が見えるが、ある物件の所有者から取り壊す方向であるとの回答を得てから、随分時間が経過するが何もなされていない。豪雨で更に脆弱化している。前回の質問では所有者の事情を把握し、倒壊事故防止に努めるという答弁だが、町民に被害があれば所有者の事情などと言えない。現在の所有者の認識はどうか。

### 答弁（建設課長）

空家の現状を伝え助言するなど34件の危険家屋が所有者の責任で解体された。指摘の物件について再度手紙を送り電話で相談するなどの受け答えで解体業者との契約まで進んだと聞く。強制処分ではなく地道な対応で危険防止の努力をする。

### 答弁（建設課長）

所有者は大部分町外在住で、現状把握や近所への迷惑を認識していない例が多かったが、個人の責任など説明し、ほとんどの方に理解を得ている。当面このスタイルで進めたい。1件把握できないが、調査を進めている。

### 再質問（前田議員）

代執行など行政強制は望ましくない。まずは行政指導だが、指導は基本的にはお願いであり、相手に義務を課し権利を制限することはできない。限界を感じないのか。連絡が取れない物件はあるのか。



渡辺 年範 議員

## 問 樋門管理の対応は

答 水位を下げる指示と仮設ポンプを配置した

### 質問（渡辺議員）

今回の豪雨は、土砂災害はもちろん、床上床下浸水の被害が多かった。特に垂水区では床上浸水の被害が10件以上にも及んだ。なぜこのように被害が大きくなったのか。樋門の管理はどうだったのか。

### 答弁（総務課長）

今回は、平成28年の豪雨の時より総雨量は少ないが、連続降水量は3倍以上であり、2日間に集中して降ったのが原因である。

日常的な樋門の開閉管理は受託者が行い、梅雨や台風時には行政と受託者が連携して行っている。

垂水区の樋門は通常時大潮の干潮時でしか排水できず、平成30年度では、1月・

2月・3月・12月の年4回であり、6月・7月には排水できなかった。

通常の水位管理は、自動排水により以前より水位を下げて管理している。これ以上下げると悪臭の問題も出てくるので、ある程度の降雨が見込まれるとき以外は下げられない。

今回垂水区には、仮設ポンプ3台（150mm2台、100mm1台）、消防ポンプ10台程度で対応したが、対応しきれなかった。

この秋、排水ポンプを400mmから500mmに新しくするので、以前の15倍の排水量になる。

仮設ポンプの購入は、300mm以上のものが必要で、垂水以外に6箇所ポンプ所があるので、予算的に難しいが、検討する。



かん だ たいすけ  
閑田 大祐 議員

## 問 悪水溜の改善検討を

### 答 方法を検討・検証する

#### 質問（閑田議員）

7月豪雨災害では、土砂災害のほかに低地の浸水被害が大きかった。47時間連続で425mmという降水量があったこと、小潮で樋門の開放が出来なかったことなど、さまざまな要因が重なったことが原因だが、その要因の1つに悪水溜の容量の問題もあるのでは。長年の堆積により水深が浅くなったこと、埋め立てて住宅地等に変った部分の面積が減少したことも関係しているのではないか。

軟弱地盤や工法、予算など困難な課題は多いが、悪水溜を浚渫することで被害を減らす

ことができるならば、検討の余地はあるのでは。

#### 答弁（建設課長）

悪水溜の容量が大きいほうが有利なことは事実で、平成21年度に原下川と本郷川の出口付近の堆積土を撤去した実績がある。その工事では1,000㎡の土を撤去し、920万円を支出している。原下地区のポンプでは1,000㎡の排水時間が約11分なので、ポンプを設置している箇所についてはポンプ付近の土砂撤去を優先することで浸水被害の軽減を図れると考えている。

#### 再質問（閑田議員）

水深が浅くなっていることで、平常時は水位を下げすぎると悪臭がするなど、常日頃から課題がある。これらも含めた解決策として浚渫を提起しているのだが。

#### 答弁（町長）

今回の雨量では排水量より降水量のほうが多い。どのくらい下げれば家屋が浸水するのを遅らせられるか、シミュレーションを理論的にできると思うので、浚渫の効果も含めて検証する必要がある。

中野新開の樋門及びポンプ所



議会傍聴をしてみませんか。

次回の定例会は**12月**です

日程は町内放送・ホームページでお知らせします。

# 総務福祉文教常任委員会報告

委員長：閑田大祐 副委員長：渡辺年範  
委員：越田賢一 道林清隆 前田 太  
水橋直行

大崎上島町議会6月定例会以降に開催した、委員会での主要な調査、協議事項及び、継続審議した内容と事業内容の審議について報告します。

## ○7月豪雨災害

西日本各地に大きな被害を出した豪雨災害について、被害の状況や国・県の支援策、税や使用料の減免・納期限の延長も含めた支援態勢、各地区の避難状況、災害ごみの数量などの説明を受けました。

最も被害が大きかったのは垂水地区で、短時間に大量の雨が降ったこと、小潮で調整池の水位が下げられなかったことなどが重なり、低地での浸水被害が多数を占めました。

幸いにも大崎上島町では亡くなられた方はいませんでしたが、近年大きな災害が多数発生していることも踏まえ、さらなる防災・減災対策を講じていく必要があります。



## ○学習交流センターの運営状況

夏休み期間までの管理運営状況やスタッフの業務内容・学校との連携体制などの説明を受けました。また、施設の一般利用についての説明も受けました。



## ○オレンジハウス

平成16年度、広島ユニバーサルリビング事業として採択され、高齢者や障がい者が共に暮らせる居住空間として平成17年5月に開設されました。

近年の利用状況や要望等を踏まえ、昨年度から広島県と協議していましたが、障害者グループホームに転用する方針が固まりました。



## ○町立幼稚園再編

少子化が進んだ本町は現在、町立幼稚園2園（木江・大崎）を含め幼児施設が4園あります。1学年の総数が40名を下回るなか、文部科学省において法改正（学

校教育法・平成29年度改正）により今後の幼稚園のあり方が示され、教育委員会ではこれに適応すべく議論が重ねられてきました。

今年度、教育委員会は「町立幼稚園の今後の方向性」をまとめ、これをもって幼児の保護者などを対象に7月17日と8月20日に説明会を開催、1回目の説明会で統合の方向性が了承されたため、2回目は要望を受けられる場となりました。

今後は現在の「木江幼稚園」を新たに「大崎上島幼稚園（仮称）」として、町立幼稚園を統合することとなります。

当委員会としても、再編後に町がより一層充実した幼児教育を提供できるよう、努力してまいります。

# 産業建設常任委員会報告

委員長：尾尻康二 副委員長：森若 巖  
委員：上青木至 信谷俊樹  
浜田明利 浜田幸造

平成30年6月定例会以降の委員会報告をします。各課から9月定例会で議案となる条例案、補正予算案、主な事業の進捗状況などの説明を受けて審議をしました。

## ○主要新規事業の進捗状況

7月の豪雨災害により、設計業者、工事施行者とも災害復旧工事を優先しており、橋梁修繕工事1件、町道等整備・改良事業5件が繰越となる見込みです。また、それ以外の事業も災害復旧工事が優先され、遅れ気味であるが、今年度末までには完了する予定です。



## ○大串区に建設する定住促進住宅の進捗状況

8月末現在、宅地造成を完了し、建物工事に入り進捗状況は9%で予定通り進行しています。建物基礎のコンクリート打設が終わり、建物の立て方工事が進行しています。工事の実施は大和リースの一次下請けで、地元建設業者6社が施行しています。



## ○捕獲鳥獣処理施設の稼働状況と施設整備への対応

4月より試行を行い、5月1日から猟友会に委託し、稼働を開始しました。8月末まで、110頭受付し、2873kgを処理しました。月平均開設日数は19日で月

平均受付頭数は22頭です。

施設整備は猟友会と協議しながら進める予定です。鳥獣等の洗い場設置は、施設周辺の舗装時に施行し、鳥獣を一時格納する冷蔵庫は冷凍庫に変更し、1月下旬に設置します。イノシシの農作物等への被害が増加しており、処理施設の利用を推進し、駆除が進展するよう要望しました。



## ○豪雨災害に関する補正予算

- ・農林水産業施設災害復旧費 2090万円
- ・公共土木施設災害復旧費 5510万円
- ・農地災害復旧事業 8773万円
- ・農業用施設災害復旧事業

- 4496万円
- ・道路橋りょう災害復旧事業 8828万円
- ・地域再建被災者住宅等支援事業

- 490万円
- ・海の清掃廃棄物収集運搬代 45万円
- ・道路施設維持管理費 664万円

## ○大崎上島町上下水道事業経営審議会の設置

3町合併後15年となり、上下水道事業に関する設備投資や料金改定等重要な事項を審議することが必要となっており、

上下水道の使用者に中長期的な視点で経営全般について議論してもらうため、新たに設置するものです。審議委員は町議会議員、学識経験者を有する者、関係団体で推薦する水道使用者から選ばれた10名で構成し、町長が委嘱します。委員の任期は2年です。なお、設置に関する条例案は9月定例会において議決されました。

# 追跡 あれからどうなった

(平成27年12月定例会一般質問から)

質問

## 野賀海水浴場周辺の整備を

回答

### 全面改修も検討

その後の経過

順次整備を進めており、排水不良は、排水枳の改修と清掃を実施しました。老朽化した停留所施設は、駐車場の改修や身障者用トイレも含めたトイレの整備と眺望を楽しめる展望デッキを設置して、訪れた方が立ち寄ってもらえる環境を整えました。

引き続き利用してもらえ、施設や環境の整備を行うべく、改めて考えます。



## 編集後記



秋が深まって参りました。先週は八幡神社の例大祭に参加し、天気にも恵まれ無事終えました。伝統行事を行うことは大変ですが、継承していくことが重要だと思います。

7月の豪雨災害は甚大な災害となりました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。当町においては、災害による犠牲者がなかったことは幸いでしたが、被災者に早急な支援を行い、復旧に取り組むことが必要です。

当町においても、災害復旧に関する補正予算を計上し、議会においても臨時会、定例会において、復興予算案を審議し、議決しました。復興予算が迅速に執行され早期に復興ができるものと期待しております。

また、9月定例会において議員定数削減の議案を議

員提案により発議しました。2年後の一般選挙より議員定数を現行の12名より2名削減し、10名とするものです。人口も減少しており、人口規模に見合った議員数にすることが必要であるとの意見が多数で、議決されました。我々議員は次回選挙においては、定数削減により、支持者を増やすことが必要となり、切磋琢磨し、町民の皆様の支持を得なければなりません。今後も、町民の代弁者の役割を果たすべく取り組んで参ります。

(O・Y)

### 議会広報委員

委員長 閑田大祐  
副委員長 水橋直行  
委員 上青木至  
尾尻康二  
越田賢一  
森若 巖

## 大崎上島町議会

TEL(0846) 6 5 - 3 1 3 0 (直通) / FAX(0846) 6 5 - 3 1 1 7

〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野6625-1

URL:<http://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/>



スマホやタブレットに無料アプリ「マチイロ」をインストールすることで、いつでもどこでも議会だよりを読むことができます。ぜひ、ご利用ください。(※議会だよりは定例会後の発行のため年4回です。)



ios



android